

障害者支援施設 鹿野かちみ園

1 基本方針

利用者の人権を尊重しながら、一人ひとりが生きがいや役割をもって楽しく穏やかに生活できるよう日々支援するとともに、その人に相応しい自立への支援を行う。

また、地域に根ざした信頼される施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和5年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別								
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡			
				GH	アパート等								
生活介護	60	77	2	6	0	0	0	2	2	2	16,636	103.0%	73
施設入所支援	60	63	4	5	0	0	0	2	1	2	21,216	96.6%	62
4 轉	生活介護	60	5	3	0	0	0	0	0	3	17,397	107.8%	77
	施設入所支援	60	3	3	0	0	0	0	0	3	22,076	100.8%	63

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	2	10	18	8	39
女性	0	0	0	4	4	15	11	34
計	0	0	1	6	14	33	19	73

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	9	15	7	33
女性	0	0	0	1	2	15	11	29
計	0	0	0	3	11	30	18	62

3 事業の実施状況

（1）要介助高齢知的障がい者支援

ア 高齢化による疾病（生活習慣病等）、身体機能低下（ADL低下）、脳の機能低下（認知思考、気力等の低下）が見られる利用者について、専門的知識・技術を園内外の研修で習得し実践した。

園内では、要介助高齢部会を中心に外部講師による「排泄研修」を行ったほか、移乗介助、ポジショニング等の技術事例を通じて生活の質の向上に繋がるよう取り組んだ。

（ア）健康管理

- ・嘱託医及び他の医療機関と緊密な連携を図り、異常の早期発見・早期治療に努めた。

また、月2回の精神科医の往診で、症状の不安定な方への早期対応がスムーズに行うことができた。

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症によるクラスターが1回あり、利用者8名が感染した。

また、職員10名が感染したほか、職員の家族や友人が感染し濃厚接触により園内のユニットを閉鎖せざるを得ない状況があった。

インフルエンザも利用者4名が感染した。

感染対策委員会は48回開催し、新型コロナウイルス・インフルエンザの感染拡大防止について対応策や方策の話し合いを行った。

・令和5年度の入院は16件あり、持病の悪化や進行に伴う入院だけでなく、高齢化に伴う摂食障害によるものや寝たきりなどによる施設移管となった利用者もおられた。

このように高齢化に伴う各種疾病の増加が原因で、入院治療が必要なケースは増加していることから、今後も不調の早期発見・早期対応に努めていく。

・日常生活の食事・入浴場面に潜むリスクを減らすため、新任職員を対象としたKYT研修を2回、全職員を対象としたKYT研修（グループワークを含む）を実施した。

(イ) 高齢知的障がい者対応

・月1回、歯科医師と歯科衛生士により、利用者のブラッシング等口腔ケアの方法等について、指導を受け、口腔ケアに対する意識が高まり、支援の定着に繋がった。

しかし、障がい特性や長年の習慣から口腔ケアはまだ十分とはいえず引き続き努力していくが、職員の負担になっている面もあるので今後検討が必要である。

(ウ) ADLの活動性を高める支援

・利用者の状況に応じて応じ嘱託医に相談し個々に適した食スタイルを随時見直した。

・リモートで摂食嚥下障害の研修を受講し、摂食嚥下のメカニズム・食事介助のポイントを学び、また園内各丁目で喉詰め対応の研修を行った。

今後も管理栄養士、作業療法士、看護師、支援員と連携し、個々の利用者の評価及び食スタイル（食形態・食事環境など）を随時見直し、誤嚥性肺炎や喉詰めの防止に努めたい。

・機能訓練担当（OT）職員により、個々の訓練プログラムの検討、実施による心身機能の維持、向上を図ることや機能訓練と環境調整・整備により転倒・転落リスクの軽減を図ることに努めた。また、日頃から多職種との情報共有を積極的に行った。

・利用者の高齢化、重度化対応として、法人内他施設から低床の電動ベッドを譲り受け、環境整備や、転倒リスク防止等に努めた。

(2) 利用者支援の向上

ア 行動障がいがある方や高齢知的障がい者の方を対象として、2カ月に1度、外部専門家をアドバイザーとしてケース検討会を実施した。

イ 精神障がいがある方を対象として、月に1度、外部の公認心理師により面談を行うことで利用者の精神状態の安定を図ると同時に、利用者の関わり、対人援助について職員が抱える不安・解決に向けた助言等支援のアドバイスをいただいた。

ウ 職員の自己サービス評価を実施して目標意識を明確にした。また、動画によるチームワーク支援、個別支援計画作成におけるアセスメント、リスクマネジメントによる研修を復命研修という形で積極的に行い支援向上に努めた。

(3) 日中活動の充実と潤いのある生活の提供

ア 各丁目の障害特性に応じたゆとりある活動を実施した。（音楽療法・簡易作業・DVD鑑賞等）

イ 新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、余暇の充実のため、利用者からの希望を聞き取り、毎月自治会で季節に応じたイベントを開催し、余暇の充実（フライングディスク・輪投げなどの体を動かすレクリエーション大会）に努めた。また、キッチンカーにも来ていただき利用者には好評であった。

今後の課題として、言葉でのコミュニケーションが図れない方への意思を汲み取る工夫（好きな活動や余暇を模索）や日々の生活の中で好きなこと・苦手なことなど意思の推定を行いサービス提供を行っていくが求められている。

ウ 地域の行事（各種祭り、運動会等）や交流会など地域との交流を予定していたが、今年度は自治会を中心に園内の行事の充実（映画上映会・レクリエーション大会・地域清掃など）を図った。

エ 生きがいつくりとして、地元企業の下請け作業に取り組み、工賃を得ることで達成感や充実感に繋がった。また、アート活動にも取り組んで、書道教室や日中活動の中で作られた作品をあいサポートアートとっとり展や鹿野かちみ園わびすけ展（ART CUBE クチュール鹿野）にて沢山の方に観ていただいた。

(4) 「社会参加の機会の確保」・「地域社会における共生」・「福祉人材教育」の推進

ア 感染リスクを考え、地域の行事（各種祭り、運動会等）への参加を見合わせたため地域との交流を図る機会がなかった。

イ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、福祉のまちづくり、町おこしなど地域貢献努める機会を持つことができなかつたが、次年度は運動を兼ね地域へ出かけて行き環境美化など地域へ貢献する機会を積極的に作っていききたい。

ウ 鳥取短期大学及び鳥取福祉専門学校の実習を3名受け入れた。福祉業界全体の人材育成は喫緊の課題でもあるので、職員の欠員状況を十分勘案しながら福祉人材の育成のため次年度も受け入れをしていきたい。

(5) 権利擁護・虐待防止の取り組み

ア 虐待防止チェックリストを年2回実施し、丁目会議や虐待防止委員会で確認し、日々の支援の振り返り及び検証を行った。

園内虐待防止研修では障がい者に対する法制度の確認、令和5年度の鳥取県厚生事業団虐待チェックシート集計結果をもとに当園と重なる内容や具体的な状況の確認を行い適切な支援とは何かを振り返る機会とした。

イ 自治会やヒヤリハット報告、毎月のリスクマネジメント委員会で虐待の有無を確認し、年間を通じて虐待や不適切な支援に繋がるとされる事案はなかつた。

ウ 今年度はオンライン研修だけでなく、現地研修の受講も行い、「障がい者虐待防止研修」、「障がい者虐待防止・権利擁護公開講座」、「成年後見制度における意思決定支援」、法人の虐待防止研修会等、権利擁護研修に積極的に参加した。また、知識不足、支援技術の未熟さから虐待の対象になりやすいとされる強度行動障がいを学ぶ機会として、強度行動障がい支援者養成研修を積極的に受講し、障がい特性の理解、環境調整、適切な支援方法について多くの職員が受講することができた。

(6) 経営改善・基盤の確率

・今年度の稼働率は、以下のとおりであった。

実績稼働率：生活介護103.0%、施設入所96.6%、短期入所47.4%

・常に入所希望者の名簿整理を行い、医療機関・相談支援事業者と連携を密に取り、退所者が出たときに迅速に対応出来よう努めた。

また、入所選考委員会の開催を行い欠員の期間が長期に渡らないよう入所の確保に努めた。

・新型コロナウイルスの状況に配慮しながら施設利用希望者の見学を受け入れた。

・障害支援区分は生活介護平均4.9、施設入所平均5.1で推移している。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	8月、10月	2人	2人
鳥取社会福祉専門学校	11月	1人	1人
計		3人	3人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取市鹿野町赤十字奉仕団

[延べ40人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	13	347	11	309
日中一時支援事業	0	0	0	0